

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	3971000025
法人名	(有)ラッセル社
事業所名	あっとほ一む四万十
訪問調査日	平成 20 年 1 月 16 日
評価確定日	平成 20 年 5 月 12 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3971000025		
法人名	(有)ラッセル社		
事業所名	あっとほーむ四万十		
所在地 (電話番号)	四万十市西土佐用井734 (電話) 0880-52-1166		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年1月16日	評価確定日	平成20年5月12日

【情報提供票より】(平成19年 12月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 6日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 2人, 非常勤 8人, 常勤換算 8.0人	

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造瓦葺造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900円

(4)利用者の概要(平成19年1月16日現在)

利用者人数	8名	男性 2名	女性 6名
要介護1	1名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.7歳	最低 71歳	最高 96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	四万十市国保西土佐診療所、岡村歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ぬくもりを感じる木造の二階建てで、新築の香りがまだ残っている。利用者一人ひとりの表情は明るく、ゆったり、のんびりと過ごされている。食事の準備でランチョンマットをテーブルに敷いており、職員は共にその流れにそって動いている。全職員が理念を共有し反映していると感じられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善シートを作り、改善目標を立て、全職員が話し合っており、その後の取り組みについて記入している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成については全職員に担当ページを割り当て、最後は管理者と全職員で全体の取り組みについて話し合いを行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回行われ、ホーム側の活動内容、外部評価の報告などを行っているが、家族や他の参加者からの声は少ない。管理者は率直な意見が出るような会議のあり方について検討しなければならないと考えており、今後、双方向的な会議となることを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情は、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、苦情を職員は共に受け止め、苦情については、その原因をしっかりと調べて、本人・家族が安心して暮らせるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事には積極的に参加するように取り組んでいる。日々の散歩を通して地域の人々とのつながりも生まれている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 近隣との交流は出来ているが、地域密着型サービスとしての内容とはなっていない。	○	これまでの理念に加えて地域密着型サービスとして利用者が地域住民の一員として暮らし続けられる内容を追加することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 全職員が出席するスタッフ会議で、理念について具体的なケアの方法を話し合い意識づけがされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 入居者主体とし、その人に寄り添ってゆったりした環境で理念の反映がみられる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。	○	地域住民との交流の場を多くするためにも町内会等に参加されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 改善計画シートを作り、8点の目標を作り改善に向けて全職員で取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 2ヶ月に1回の運営推進会議は行っているが、双方向的な会議になっていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 課題について報告し、職員と改善に向けて話し合いをしている。	○	参加メンバーの質問、意見要望が出るよう課題の投げかけ等、双方向的な会議になることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。 毎月2回行政の福祉担当者や関係機関と担当者会を開きサービス向上に取り組んでいる。高校生の職場体験を受け入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 いつでも訪問しやすい雰囲気作りに努めている。家族も月に1回は必ず訪問している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 定期的ではないが、ほとんど毎月「あっとほーむ四万十」として暮らしぶりや写真等を載せた通信を発行している。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 家族の訪問時にはホームでの暮らしぶりを話し、心身に少しでも変化があれば必ず家族に連絡している。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 金銭出納帳は家族が確認している。一時立替の利用者にはホームが領収書をコピーして家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 家族会はない。以前は家族同士の井戸端会議的な交流があったが、現在はそのような場はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 最近苦情が1件あり、現在発生要因を探り、職員の対応方法について検討するなど、質の向上をめざす取り組みがされている。	○	家族が集まれる行事や楽しいイベント等家族同士が交流できる場の設定を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 地域内の顔馴染みの職員もあり、事業所としての異動は少ない。離職する場合も利用者の動揺につながらないよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が替わるときは、引き継ぎの期間を十分に取、スムーズに移行できるように配慮している。 職員が替わるとき、引き継ぎ期間は最低一週間取っている。夜勤も必ず1回は経験している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input checked="" type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 スタッフ会議は全職員が参加できるよう努めている。研修情報も回覧している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 スタッフ会議で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。 県内ネットワークに加入している。管理者が一度参加したことがあり、今後は職員の参加を考えていた。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。 管理者と利用者は地域内にあるグループホームを訪問するなど意見交換を行っているが、職員同志の交流の場には至っていない。	○	職員についても地域内にあるグループホーム等との交流を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 入居前に本人と話す機会を多くもち、心身の状況や生活歴を把握するなど、信頼関係を築くよう努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 本人や家族が納得されるよう見学や行事にも参加してもらっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。利用者主体で散歩、買い物、花の世話、歌など自然の流れの中で職員は常に寄り添い支援されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 利用者に出来ることはしていただき、職員は共に暮らすという姿勢で支援しているが、利用者に気付かれない配慮をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 感謝の気持ちや勇気や元気、やさしさ等、利用者から多くを学んでいるという職員の声がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 本人の思いや希望を把握するため関係者からも情報を得るなど、本人の意向に沿うよう職員間でも話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 表情の少しの変化も見のがさず、また、家族の訪問時や昔からの馴染みの友達からも情報を得るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 本人や家族からの聞き取りを十分にされ、本人、家族、職員で話し合い、そのニーズを大切に取組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 全職員の参加で行なわれているスタッフ会で意見交換し、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 必要に応じて、本人の変化や家族の希望を生かし介護計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 個別記録により、本人の状態と計画内容を全職員が共有できるよう取組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 協力医療機関である診療所やかかりつけ病院の治療を受けながら生活を継続している。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 重度化した場合についてはホームでの生活が可能な限り対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 墓参りをはじめやコスモスの花見やお正月の初詣、又お正月には1名外泊されるなど支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 受診結果を記録するだけでなく、家族への連絡や職員の情報共有を大切にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。 本人や家族の希望を踏まえ、かかりつけ医やケア関係者等と話し合い、通院や往診によりホームでの生活が可能な限り対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 利用者に対する職員の声かけ、態度はプライバシーを損ねない、ごく自然な対応ができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 一人ひとりを大事にすることをスタッフ会議等で話し合い、全職員がプライバシーに関する認識を高めることに努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底している。 職員採用時に個人情報保護法について十分に説明し誓約書をかわし、理解の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 散歩は随時行っている。職員は自然の流れの中で対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 散歩、買い物、食事作り、後片付け等利用者が主体で動いている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。 職員は利用者の中に入り、ゆっくりと自然の会話で、和やかな食事風景となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 利用者の希望にあわせて、毎日でも入浴できるが基本的に夕食前となっている。職員の工夫で夜入浴している方も1人いる。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 拒否する方には散歩の後などに声かけするなど工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 テレビを見たり、新聞を読んだり、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ、将棋をするなど、日々の生活の中で役割や楽しみを見つけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 男性の方の役割や知恵を発揮できる場面作りが少ないが、外出やドライブに声かけして気分転換をはかっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 散歩だけでなく馴染みの美容院へ出かけるなど、利用者の思いを大切にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 歩行困難な方にはシルバーカーや車イスなどを利用して戸外へ出かけるよう支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 いつも職員は利用者に寄り添って見守りを大切にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 外出傾向の利用者は把握しており、利用者に気づかれぬよう安全を確認しながら、後から見守り付き添っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえぬ関係を築いている。 近隣の人達は気軽に話せる顔馴染みであり、日々の散歩でも声をかけ、支えられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 消防署の協力で防火訓練は昨年12月10日に行ったが、地域住民参加の訓練は実施できていない。 <input type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 消火器の点検は行っている。非常用食料、備品は準備されていない。	○	地域住民の参加・協力を得ながら避難訓練を実施することを期待する。非常用食料、水、備品も準備されることを望みたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 一人ひとりの水分量や栄養摂取量のチェック表は作っていないが、把握している。体重測定も月に1回行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 本人の希望を聞き献立に採り入れている。水分量に気を付け、汁物を多くしたり栄養のバランスにも配慮している。 <input type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 診療所を定期的に受診している方の中には、減塩食やゼリー食などの利用者もいるため、専門的なチェックをされたい。	○	一人ひとりの体調や状況変化はいつも気にかけているが、栄養バランス等専門的な立場の方のアドバイスを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 玄関や廊下、洗面所、台所の少しの空間にも花が飾られ、昔なつかしいおじやみや将棋盤がさりげなく置かれ、のんびりくつろげる空間になっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 共有の空間には、暦がさりげなく掛けられるなど、特別な飾り付けはなく、自然な家庭的な雰囲気で落ち着いて過ごせる。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 椿の花や庭先に咲いている季節の花が生けられ、細やかな配慮がされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 仏壇が置かれていたり、家族の写真も飾られていた。 <input type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。	○	家族の協力を得ながら思い出の物品を一つでも多く配置することについて、職員の一工夫を期待したい。